

## 令和4年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 泉が丘小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和4年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### 【調査の概要】

#### 1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

#### 2 調査期日

令和4年4月19日(火)

#### 3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 理科, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 理科, 生徒質問紙)

#### 4 本校の参加状況

① 国語 103 人

② 算数 103 人

③ 理科 103 人

#### 5 留意事項

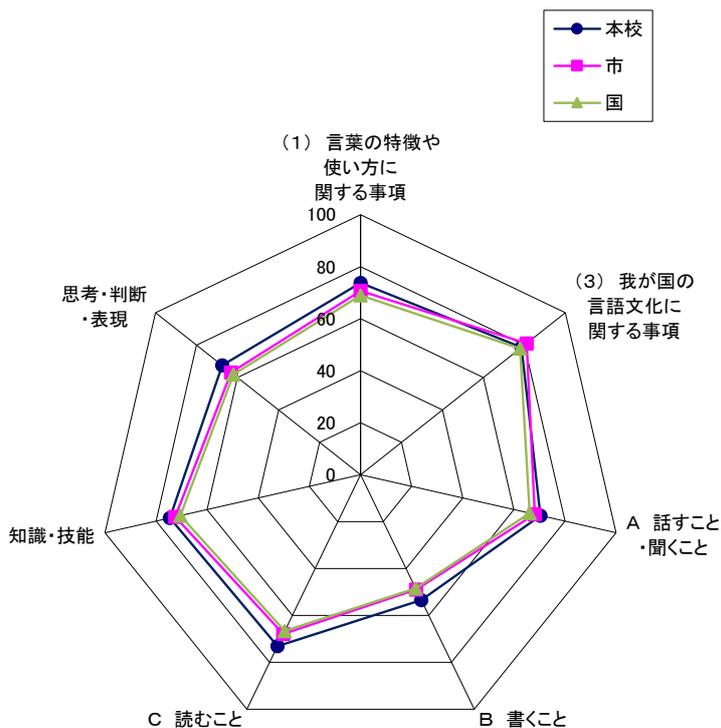
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

# 宇都宮市立泉が丘小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

## ★本年度の国、市と本校の状況

### 【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	73.8	70.7	69.0
	(2) 情報の扱い方に関する事項			
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	78.6	81.1	77.9
	A 話すこと・聞くこと	70.4	68.2	66.2
	B 書くこと	53.4	48.9	48.5
	C 読むこと	73.1	67.9	66.6
観点	知識・技能	74.6	72.5	70.5
	思考・判断・表現	67.5	63.2	62.0
	主体的に学習に取り組む態度			



## ★指導の工夫と改善

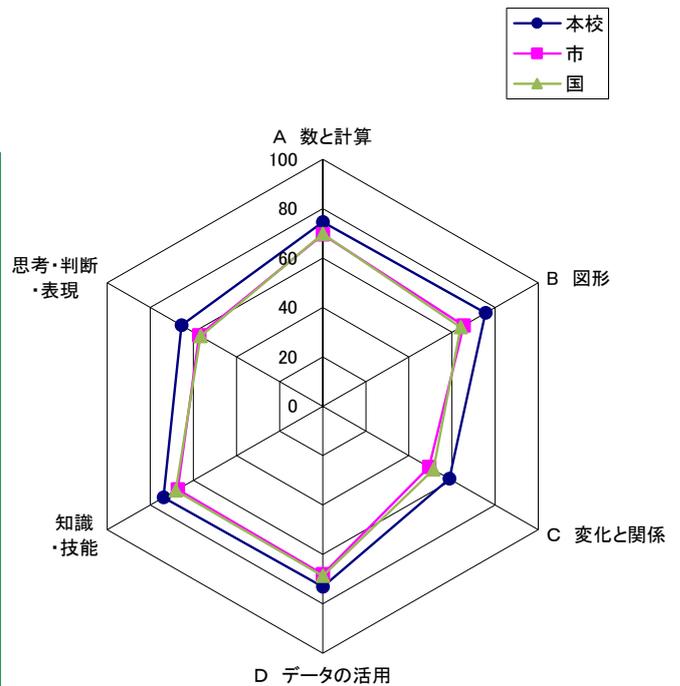
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方に関する事項	○平均正答率は73.8%で、市平均と比べて3.1ポイント上回る。 ●漢字を文の中で正しく使う問題では、正答率が80%を越えるものもあるが、正答率が63.1%と、低いものもあり、漢字の習得に課題が見られる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・学年配当漢字だけでなく、既習漢字を継続的に練習する機会を設け、文章の中で学習した漢字を使えるように指導していく。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	●平均正答率は78.6%で、市平均と比べて2.5ポイント下回る。 ●「漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書く」問題において、文章を書き直した際に、気を付けた内容として適切なものを選択する設問で、正答率が市や県と比べて低かった。	・書写の授業における硬筆の時間を充実させるとともに、文章を書く際に、日頃から文字の大きさや配列を意識して書くよう指導していく。
A 話すこと・聞くこと	○平均正答率は70.4%で、市平均と比べて2.2ポイント上回る。 ○「必要なことを質問し、伝えたいことや聞きたいことの内容を捉える」問題では、正答率が86.4%と高かった。 ●「立場や意図を明確にして、自分の考えをまとめる」問題は記述式であったため、他の設問と比べて正答率が54.4%と低かったと思われる。	・話し合い活動においては、話の中心を捉えながら話したり聞いたりできるよう、また、根拠を明確にして、自分の考えをまとめたり発表したりできるよう、指導の充実を図る。その際、話し合いの助けになるよう、掲示資料を作成し、参考にさせるようにする。
B 書くこと	○平均正答率は53.4%で、市平均と比べて4.5ポイント上回る。 ●市平均より上回ってはいるが、他の領域と比較して最も正答率が低く、「書くこと」に課題があると考えられる。 ●伝え合いの様子の一部を基に、文章のよさを書く記述式の設問は、正答率が41.7%と低めであった。	・制限字数や制限時間のある中で、書く活動を経験させるようにする。 ・他教科との関連を図り、目的意識をもって書く場面や機会を設定する。
C 読むこと	○平均正答率は73.1%で、市平均と比べて5.2ポイント上回る。 ○登場人物の相互関係について、描写を基に捉える問題の正答率は77.7%で、市平均より8.1ポイントと大きく上回った。 ●表現の効果を考える問題の正答率は59.1%で、市平均より0.1ポイント下回った。	・今後も、感覚ではなく、叙述や描写を基に登場人物の行動や気持ちを読み取ることができるよう、読み取り単元の指導の充実を図る。 ・朝の読書の時間を充実させ、いろいろな文章を読むことで、表現の効果に気付けるようにしていく。

# 宇都宮市立泉が丘小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

## ★本年度の国、市と本校の状況

### 【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	74.6	69.5	69.8
	B 図形	75.5	65.4	64.0
	C 測定			
	C 変化と関係	58.7	49.3	51.3
	D データの活用	73.1	68.0	68.7
観点	知識・技能	73.9	67.3	68.2
	思考・判断・表現	65.6	57.3	56.7
	主体的に学習に取り組む態度			



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

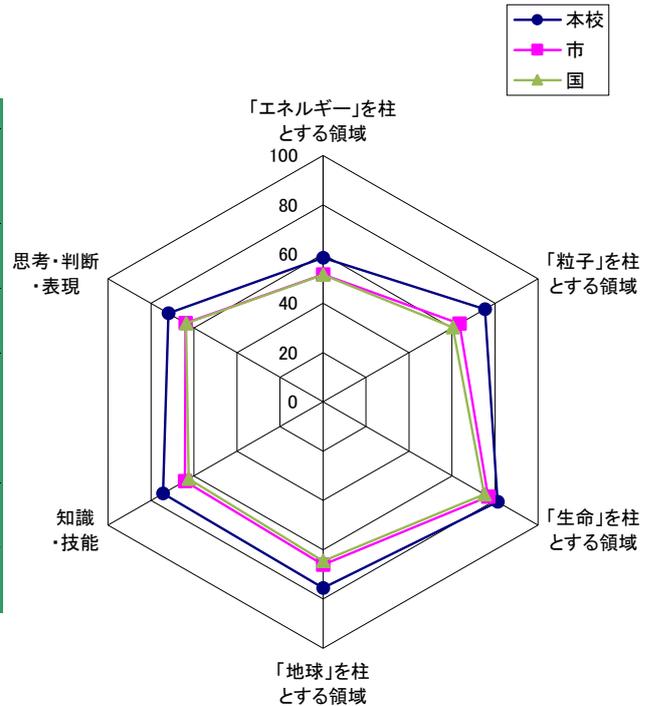
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	<p>○平均正答率は74.6%で、市平均と比べて5.1ポイント上回る。</p> <p>●示された場面において、目的に合った数の処理の仕方を考察する問題では、正答率は33%と、県や全国と比較してやや下回った。このことから、日常生活の場面に即して判断する能力に課題が見られる。</p>	<p>・単元の導入や困難が予想される問題など、実際に児童が作業するための具体物や半具体物を用意し、個に応じた指導の充実を図る。日常生活の具体的な場面に対応させながら、問題文の事柄や関係を式に表すことができるよう指導を行う。</p>
B 図形	<p>○平均正答率は75.5%で、市平均と比べて10.1ポイント上回る。</p> <p>○正三角形の構成の仕方について考察し、記述する問題では、正答率は70.9%と高く、市平均と比べて17.4ポイント上回った。</p>	<p>・ドリルやプリントを活用して、基本図形の性質や面積の求め方の理解を深め、複数の図形が組み合わさった形など、特別な場合に活用できるように指導する。</p>
C 変化と関係	<p>○平均正答率は58.7%で、市平均と比べて9.4ポイント上回る。</p> <p>○比例の関係であることを用いて、未知の数量の求め方と答えを記述する問題では、正答率は61.2%で、市平均と比べて14.6ポイント上回る。</p> <p>●百分率で表された割合を分数で表す問題では、無回答率が4.9%であり、手掛かりをもとに考察を深め、答えを導きだそうとする力に課題が見られる。</p>	<p>・百分率や割合、比例を求めるための知識の定着を図るため、プリントやドリル学習などを通して、繰り返し指導する。また、身近な課題を取り上げた問題を数多く設定し、応用力を養っていくことに努める。</p>
D データの活用	<p>○平均正答率は73.1%で、市平均と比べて5.1ポイント上回る。</p> <p>○目的に応じてデータの特徴を捉え考察したり、必要な情報を読み取ったりする問題では、無回答児童が0%であった。昨年度課題であった、適切なデータを集める能力に伸長が見られた。</p>	<p>・課題解決に向けて、複数のデータを集めて分類整理し、表やグラフに表すことができるようにするため、今後も適切なデータを選択することができるような課題設定に努める。</p>

# 宇都宮市立泉が丘小学校第6学年【理科】分類・区分別正答率

## ★本年度の国、市と本校の状況

### 【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	58.5	51.7	51.6
	「粒子」を柱とする領域	75.3	63.5	60.4
	「生命」を柱とする領域	81.2	76.8	75.0
	「地球」を柱とする領域	75.5	66.1	64.6
観点	知識・技能	74.4	64.2	62.5
	思考・判断・表現	71.9	63.9	63.7
	主体的に学習に取り組む態度			



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	<p>○平均正答率は51.7%で市平均と比べて6.8ポイント上回った。</p> <p>○鏡を使って日光を的に跳ね返し、その形や的の温度について調べる実験の記録の整理の仕方を選ぶ設問では、正答率が82.5%と高かった。</p> <p>●実験の記録から、問題の解決に必要な情報を取り出すことはできるものの、それらを分析し、自分の考えを記述する設問では、正答率が40.8%と低かった。</p>	<p>・実験から結果を導き出してまとめるだけでなく、既習の知識と結び付けて、実験結果から考察したり新たな疑問をもったりできるようグループや学級全体で共有する活動を取り入れて深い学びになるようにしていく。</p>
「粒子」を柱とする領域	<p>○平均正答率は75.3%で市平均と比べて11.8ポイント上回った。</p> <p>○実験器具の名前やその使い方を問う設問では、正答率が80%以上と高かった。</p> <p>●凍った水溶液について、試してみたいことを基に問題を見出し、その内容を記述する設問では、正答率が47.6%と低かった。</p>	<p>・仮説・実験・考察から新たな疑問を導き出す活動の流れを指導するとともに、考察から生まれた新たな疑問を解決できるよう、ICT機器や視聴覚教材等を効果的に活用しながら主体的に学習できるよう支援していく。</p>
「生命」を柱とする領域	<p>○平均正答率は81.2%で市平均と比べて4.4ポイント上回った。</p> <p>○ナナホシテントウの飼育において、問題を解決するために必要な観察の視点や筋道を問う設問では、正答率が97.1%と高かった。</p> <p>●昆虫の育ち方などの観察で得た結果を基に、それらを分析して自分の考えをもち、新たな問題を見出す設問では、正答率が71.8%と他の設問より低かった。</p>	<p>・実際に生物の飼育や観察をする活動を取り入れたり、飼育する活動が難しい場合は、視聴覚教材やICT機器を活用したりして、体験や疑似体験を充実させていく。</p>
「地球」を柱とする領域	<p>○平均正答率は75.5%で市平均と比べて9.4ポイント上回った。</p> <p>○冬の天気と気温の変化の観察で得た結果を基に、問題に対するまとめを選ぶ設問では、正答率が90.3%と高かった。</p> <p>●冬の夜の気温の変化について、冬の数日間の天気と気温の観測結果から、どの部分を分析すればよいのかを問う設問では、正答率が55.3%と低かった。</p>	<p>・観測の記録から複数の情報を整理し、分析・考察する力を高めるために、グループや学級全体で話し合いの時間を十分に取児童の力で結果を導き出せるように支援していく。</p>

## 宇都宮市立泉が丘小学校 第6学年 児童質問紙

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「自分には、よいところがあると思いますか」について、「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童の割合が89.5%で、全国の平均より10.2ポイント、県の平均より8.0ポイント上回っている。また、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」に対する肯定的な回答の割合が98.3%である。ほとんどの児童が、教師はよいところを認めてくれていると回答しており、自己肯定感の高さと関連があると推測される。今後も、教師が認め励ます教育の充実を継続するとともに、児童同士が互いに認め合う場を設定できるように、教育活動の工夫を行っていききたい。

○「人が困っているときは、進んで助けていますか」について肯定的な回答の割合が93.9%である。また、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の肯定的な回答の割合も99.1%と高く、ほとんどの児童が人の役に立つことに意義を感じていると推測される。今後も継続して、特別活動や道徳教育との関連を図り、親切・思いやり、勤労・奉仕などの態度を育てていききたい。

○ICTの活用については、授業での使用頻度が全国や県の平均を上回っている。調べる場面においても、PC、タブレットなどのICT機器の使用割合が、全国や県の平均を17.5ポイント上回っている。「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか」では、「役に立つと思う」と回答した児童の割合が、全国より9.9ポイント上回っている。これらのことから、ICT機器が授業で頻繁に使われるようになり、効果的な活用が図られていると推測される。今後も、より一層の効果的なICT機器の活用を図るとともに、意見を交換する場面においても積極的に活用していききたい。

○「理科の勉強は好きですか」について、全国の平均より21.8ポイント、県の平均より18.6ポイント上回っている。これまでの学習を通して、理科への興味・関心が高まっていると推測される。また、「理科の授業の内容はよく分かりますか」について、「当てはまる」と回答した児童の割合が、全国より22.3ポイント、県より17.0ポイント上回っている。今後も、分かりやすい授業のためにICTの効果的な活用や、観察や実験を通して、理科の見方・考え方を育てる体験的な学習の充実を図っていききたい。

●「将来の夢や目標をもっていますか」について、「当てはまる」と回答した児童の割合が、全国より10.4ポイント、県より10.1ポイント下回っている。発達段階に応じたキャリア教育などを行い、将来のビジョンについて考える機会を設けたり、キャリアパスポートを活用したりして、夢や目標をもてるように指導や支援をしていききたい。

●「自然の中で遊ぶことや自然観察をすることがありますか」について、「よくある」と回答した児童が、全国の平均より7ポイント下回っている。生活環境が商業地区のため自然に触れる機会が限られていると思われる。生活科や理科、総合的な学習の時間などで、自然に触れる機会を設けたり、家庭や地域との連携を図ったりして、自然への興味・関心を高めていけるようにしていききたい。

●「学校の授業時間以外に、読書している」について、30分以上読書している児童の割合が、全国の平均より10.1ポイント、県の平均より9.8ポイント下回っている。読書時間の減少については、児童が家庭でタブレットを活用して学習したり、調べたりしていることが増えてきたことも一因かと推測される。今後は、朝の読書や国語の時間等で本の紹介をしたり、家庭との連携を図ったりして、本に親しむ機会を増やしていききたい。

## 宇都宮市立泉が丘小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力を育むために、実社会や実生活に関連した課題を取り上げるなど、児童が興味・関心をもって取り組める課題の設定や学習内容の明確化を図る。 「自分の考えを書く活動」の習慣化やそれを基に、「聞く・話す」など基本的な能力・技能を身に付けさせる学び合い活動の充実。	「国語・算数・理科の勉強は大切ですか」の項目では、大切だと回答している児童の割合がいずれも90%を超え、全国平均よりも10ポイント以上上回っている。 6年国語「互いの立場や意図を明確にしながらいかに話合い、自分の考えをまとめる」設問では、正答率は全国平均と比べて6.7ポイント上回っている。□
家庭学習の充実	個々の家庭学習状況を確認し、取組に応じた支援や励ましに生かすためにカードを活用できるように指導している。 学年便りや個人懇談を通して家庭との連携を図り、継続しながら支援していけるように指導している。	「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」の項目では、肯定的な回答割合は、全国の平均よりも6.1%上回っている。学校の授業以外の学習時間で、1時間以上学習している児童が全国平均よりも3.3%下回っている。

### ★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
「学校で、自分の考えをまとめ、友達と意見を交換する場面でタブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか」についての肯定割合は、全国平均を上回っているが、毎日使用しているという割合が3.4ポイント下回っている。	個別最適な学びと協働的な学びの融合を図った授業の推進	日常的にICT機器を効果的に活用するとともに、協働学習ツールを積極的に学習活動に取り入れ、多様な他者とともに課題解決に取り組むことで、教科の学びを深める。 AI型ドリル等を計画的に活用し、個に応じた目標達成を図る。